

# 赤れんが通信



北海道庁の金昭賢(キム・ソヒョン)国際交流員が、韓国の友好地域との交流事業及び北海道の情報などについて書いたレポートをご紹介します。

## 韓国 DAY 開催

去る12月16日、駐日韓国文化院と連携し、札幌市内のランドマーク「さっぽろテレビ塔」にて韓国を紹介する「韓国DAY」イベントを盛況のうちに開催しました。会場では、韓国伝統音楽の公演、韓国映画の上映会、友好地域紹介展などの様々な見どころを含め、韓国の伝統衣装体験、韓紙工芸及びカリグラフィークラスのような体験型イベントも行われました。新型コロナウイルスで海外旅行が難しくなった状況の中で、イベントに参加することで韓国に旅行に行ったような気分を味わうことができ、多くの来場者の方々が喜んでいました。



①参加者は韓服体験コーナーで、本人の体形に合った衣装を試着することができます ②④カリグラフィー及び韓紙工芸クラスの様子 ③カリグラフィークラス受講生の作品 ⑤伝統音楽公演とともに、「虎が下りてくる」という歌詞でお馴染みの「水宮歌」パンソリ公演などを披露しました ⑥友好地域紹介、三行詩コンテストの受賞作及び韓国観光地紹介コーナー ⑦友好地域紹介セミナー ⑧Lights On!ランドマーク点灯

北海道と釜山広域市が友好提携15周年を迎えた2020年には、新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念され、記念行事を実施することができなかったことから、今回の「韓国DAY」事業を友好15周年記念事業として、両地域のランドマークを点灯する「Lights On!」イベントを実施しました。当日の夕方、札幌では「さっぽろテレビ塔」が釜山を象徴する青色に、釜山広域市では「釜山タワー」と「広安大橋」、「映画の殿堂」が北海道を象徴する緑色に点灯されました。

## 札幌で楽しむ冬季オリンピック

私たち国際交流員は冬季オリンピック期間中にウィンタースポーツの体験に行ってきました。種目は「カーリング」！個人的に韓国で生活スポーツ指導士研修を受ける時に聞いた話でもあり、日本で過ごしてみて大きく実感したことが一つあります。それは、日本では一般の生徒たちも学校の部活動を通じて様々な種目のスポーツに接して自分に合ったスポーツを見つけることができ、さらには生涯にわたって楽しめる生活体育が非常に発達しているということです。特に、北海道にはスキー場をはじめ、アイススケートリンク、カーリング場など、ウィンタースポーツを満喫できる様々な施設があります。ほとんどの日本の小・中学校にはプールが設置され、学校で水泳の授業が行われているということも驚きですが、それよりもカルチャーショックを受けた事実は、北海道では冬に小学生たちが体育授業で、学校の運動場でスキーやスケートを普通に習っているということです。このようなことから見ると、北京2022冬季オリンピックの女子カーリング日本代表の全員の出身地が「北海道」であることはきっと偶然ではないと言えるでしょう。

### どうぎんカーリングスタジアム カーリングと仲良くなろう

「カーリング場？カーリングを誰がやるの？」と思う方々もいらっしゃるかもしれませんが、札幌市内にあるこの施設は予約競争率が300倍に達するほど、高い人気を誇ります。それだけカーリングを楽しむ人口が多いということでしょう。私たちが体験に参加した時間帯には、隣で小学校の授業が行われており、その後は老若男女を問わず同好会の会員など、多くの方でカーリングシート(競技レーン)がいっぱいに埋まりました。

中継画面から観るカーリングはそれほど難しそうに見えませんが、実際にやってみたカーリングはかなりの体力を要する運動でした。まずは、両側の履き心地の違うカーリングシューズを履いてシート上を歩くことから難関の始まりです。(左足の靴底はとても滑りやすいが、右足の靴底は滑りづらい素材となっている)。シューズの違和感を克服した後の難関は、体の中心を保ちながら約20kgのストーンを片手で滑らせること、ストーンの方角を確認しながら力を入れて素早くスイープすること、ストーンにターンを与えて滑る方向や力の加減を調節することなどがあります。全体の様子を考えながら戦略を立てなければならないので、早い頭の回転も必要です。

今回の体験を通じて、韓国でもカーリングが「一時的な人気」に止まらず、誰もが気軽に楽しめる生活スポーツの種目として定着してほしいと思いました。

(※どうぎんカーリングスタジアムは新型コロナウイルス感染症対策を徹底しています)



▲ストーンを投げる動作を習いました

### 「大倉山ジャンプ競技場」&「札幌オリンピックミュージアム」

二つの施設は、「1972年札幌オリンピック」と関係があります。大倉山ジャンプ競技場は市内から近い場所(なんと中央区！)に位置しており、札幌の中心部を一望できる観光スポットとしても知られています。

札幌オリンピックミュージアムには、歴代冬季オリンピックに関する選手たちのユニフォームや競技服、各種メダル、パラリンピック選手の道具などが展示され、激しい試合の様子が想像されました。また、ここではシミュレーターを利用してボブスレー、スキージャンプ、スピードスケートなども体験しながら楽しい時間が過ごせます。



▲1972年2月に開催された札幌オリンピックの資料

◀スタート位置から見る風景！  
真正面に大通公園と札幌テレビ塔があります。  
(※特別な許可を得て撮影しています)



✓ 赤れんが通信  
バックナンバーは  
こちら



✓ 北海道庁  
国際課  
FACEBOOK



✓ 編集者・発行先 総合政策部 国際局 国際課

北海道札幌市中央区北3条西6丁目

TEL : +81-11-231-4111 FAX : +81-11-232-4303